

研究ノート

山形の日台交流の現状と課題

中 澤 信 幸

1. はじめに

台湾は日本とは民主主義の価値観を共有しており、その「親日」性がしばしば強調されることもあって、日本人にとっては強い親近感を抱かせる「国」となっている。また、近年は台湾の食文化や芸能タレント等のファッションが日本にも浸透し、日本の若者にとって台湾は一種の「憧れ」ともなりつつある。それを反映して、日本から台湾への旅行者は2019年まで増加し続けていた。一方、台湾にとっても日本は人気の観光地となっており、日本への旅行者はやはり増加し続けていた。

とはいえ、2020年からのコロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的な蔓延により、日台の観光交流は停滞を余儀なくされた。日台交流はその「真価」が問われるようになってきていると言える。本稿では、山形と台湾との交流の経緯と現状について振り返り、これからの課題を提示することにした。

2. 山形における日台交流

2.1 山形県日華親善協会と山形商工会議所

山形における日台交流を語る上で、必ずと言っていいほど持ち出されるエピソードがある。それは、かつて山形市の市長であった大久保傳蔵（1901～1986）が、中華民国の総統であった蒋介石の「寛大なる戦後処理の恩恵」を後世に伝えるため、そして蒋介石ゆかりの地・台湾との一層の交流促進を目的として、1964年に全国に先駆けて山形県日華親善協会を設立したということである¹。

それ以来、山形県日華親善協会は久保の意志を受け継ぎ、台湾との相互理解を深めるとともに、文化・経済等の民間交流を促進してきた。現在は山形商工会議所の外郭団体となっている²。

そのような経緯もあり、山形と台湾との交流は、山形県日華親善協会および山形商工会議所を中心に進められてきた。1993年には、山形商工会議所と台南市進出口商業同業公会（輸出入協会）が姉妹関係を結んでいる³。このようなつながりから、山形市内にある国指定史跡山形城跡「霞城公園」の二の丸東大手門が、台湾ヒノキを使って復元されていることは、著名な事実である⁴。

ちなみに、山形県を訪れる外国人旅行者は、近年は半分以上が台湾からの旅行者となっている。

2019年に山形県を訪れた台湾からの旅行者(受入延人数)は226,471人で、全外国人旅行者(388,928人)の58.2%を占めていた。2020年はコロナウイルスの影響により、台湾からの旅行者は72,312人と激減したが、これは全外国人旅行者(125,930人)の57.4%である⁵。

2.2 山形市と台南市との友好協定

2017年12月6日、「山形市と台南市との友好交流促進に関する協定」が締結された。それまで山形市と台南市とは、上述のように山形商工会議所と台南市進出口商業同業公会在姉妹関係になったことを契機に、経済分野において民間での相互交流を重ねてきた⁶。それを受けて、次は行政間においても友好協定を締結することになったのである。ここでは、観光、経済、文化、教育およびスポーツの5つの分野において交流を行い、両市間における友好関係の向上・発展を図ることが確認された。

台南市は、台湾の南西部に位置する人口約190万人の都市である。2010年に旧・台南市と台南県とが合併し、台湾の中央政府が直轄する市となった。明朝鄭成功・清朝時代には台湾の首都となっていたことから、現在でも数多くの歴史的遺産等が保存されている観光都市である⁷。

この友好協定を実質化すべく、2018年7月26日には山形市で「台南市経済セミナー」が開催され、台南市政府外交顧問の野崎孝男氏による講演会が開催された⁸。

これに続いて、2018年11月14日から18日にかけて、山形市、山形商工会議所、および山形県日華親善協会による「台南市経済訪問団」が台南市を訪問した。佐藤孝弘山形市長を団長として、市議会議長、市議会議員、秘書課長、国際交流センター所長、山形商工会議所会頭、日華親善協会会長、山形商工会議所会員、日華親善協会会員等の計40名による訪問団となった。(筆者も山形市の関係者として参加した。)11月15日は台南市政府に赴き、市長および市議会議長を表敬訪問した。16日には台南市で開催された「大台南国際旅行博」の開会式に出席、17日には新光三越(百貨店)で開催された日本フェアに出席。同日午後には国立成功大学文学院で開催された国際シンポジウム「“巡礼”による地域の魅力再発見」に出席した。(国立成功大学文学院主催、一般社団法人日台政策研究所共催。筆者も日台政策研究所理事として開催に携わった。)

翌年2019年11月12日から16日にかけて、再び山形市長を団長とする「台南市への市民訪問団」が台南市を訪問した。こちらは市長、市議会副議長、市議会議員、秘書課長、国際交流センター所長、松尾剛次一般社団法人日台政策研究所代表理事、市民、新聞記者等計37名という構成であった。これに併せて、山形商工会議所からも20名が台南市を訪問した。14日には国立成功大学文学院で国際シンポジウム「山形市と台南市の「都市」の魅力再発見 —歴史と文化に注目して—」が開催され、訪問団も出席した。(国立成功大学文学院主催、一般社団法人日台政策研究所共催。筆者も日台政策研究所理事として開催に携わった。)⁹

3. 一般社団法人日台政策研究所について

ここで、山形と台湾との交流にも深く関わってきた、そして筆者も設立以来理事として携わっている、一般社団法人日台政策研究所について説明する。

3.1 日台政策研究所の設立

日台政策研究所は、2017年7月30日に、山形大学教授であった松尾剛次（現・名誉教授）と筆者が中心となって設立した。日本と台湾を専門とする研究者たちが、それぞれの知識や人脈を生かして、連携や協力態勢を整えることにより、日台関係のさらなる緊密化と相互の繁栄をもたらすことを目的としたシンクタンクである。その設立趣旨は以下の通りである。

今日我が国において、台湾は世界有数の親日国家であるという認識が広がったことから、台湾への関心が急激に高まり、自治体や民間次元では様々なレベルやチャネルによる交流が行われています。

地方自治体レベルについていえば、各地で外国人のインバウンド誘致が至上命題になっており、外国人の中でも、親日的でマナーが良いことから台湾人を最大のターゲットに置いているところが多くなっています。さらに、各地のローカル空港の利活用でも、台湾との航路拡大に注力しているケースも少なくありません。

しかしながら、日台交流のニーズがこれほど増大しているにもかかわらず、その進行があまりにも急激だったことから、内実を深めるための取り組みが手薄になっているように見受けられます。

せっかくの日台交流も、内実の深化がなければ持続性は保てず一過性に終わってしまいます。日本の真の友人である台湾を「莫逆の友」とすることは、日本の今後の対外戦略にとっても欠かせない要素となるはずです。

内実を深めるためには、われわれ日本と台湾を専門とする研究者との連携が必要かつ効果的です。ここで言う研究者とは、単に象牙の塔に引き籠った、専門知識があるだけの存在ではありません。それぞれの専門領域を生かして、政府・自治体・団体・企業とも独自の人脈を持っているのです。

そうした専門家の持つ資源を生かし、連携や協力態勢を整えることによって、日台関係のさらなる緊密化と相互の繁栄をもたらすことができるものと確信し、ここに日台政策研究所 (Institute for Japanese and Taiwanese Policies, 略称 IJTP) を設立します。

本研究所は、この趣旨に賛同し、規約に定められた所員の義務を履行する人を会員とし、主として次のような活動を行っていきたくと存じます。

1. 台北駐日経済文化代表処、公益財団法人交流協会と連携して、地方自治体、および異なるセクターや組織間のあいだを取り持ち、相互交流を推進する。

2. 各種台湾関係団体と連携して、勉強会を開催する。
3. 台湾との交流に熱心な地方議員（政令市や中核市の市議が主）の連合体を目指す「日台交流サミット」、（その暫定的連合体）「全国日台友好議員協議会」などとも連携してその諮問を受ける。またこのチャンネルを通じて地方経済団体や企業にも対象を広げて、台湾に関する勉強会などを開催する。
4. 広く日本と台湾の政府、自治体、企業に対して台湾情勢に関する分析、政策提言、諮問を行い、各セクター・組織相互の仲介、日台交流イベントの開催などを行う。特に、日本の地方自治体に対しては、日台関係を軸や題材とした地域振興策の提言を行い、自治体などと協力して、各種交流イベントを実施する¹⁰。

以上の設立趣旨のもと、2018年2月3日には東京・台湾文化センターにて設立記念シンポジウムを開催した。その後もセミナー、シンポジウムの開催を重ね、また2019年9月26日には一般社団法人として正式に認可された。

3.2 一般社団法人日台政策研究所の歩み

日台政策研究所のこれまでの歩みを、以下に列挙する。

2018年

- | | |
|--------|--------------------------------------------|
| 2月3日 | 設立記念シンポジウム「“伝統の創造”の視点から見る祭り」（台湾文化センター） |
| 7月22日 | 第1回セミナー「台湾で後藤新平がやったこと・・・その意味」（山形大学東京サテライト） |
| 11月17日 | 国際シンポジウム「“巡礼”による地域の魅力再発見」（台湾・国立成功大学） |
| 12月16日 | 第2回セミナー「父王育徳を語る—昭和を生きた台湾青年」（山形大学東京サテライト） |

2019年

- | | |
|--------|--------------------------------------------------------------------|
| 2月10日 | 国際シンポジウム「日台における宗教と思想研究 —仏教と儒学に注目して—」（山形大学） |
| 5月25日 | 第3回セミナー「台湾の公学校における日本語（国語）教育 —国語教育という名の近代教育としての日本語教育—」（山形大学東京サテライト） |
| 8月25日 | シンポジウム「「昭和」を生きた台湾青年 王育徳 —日本で育まれた台湾の民主化運動—」（山形大学） |
| 9月26日 | 一般社団法人として認可される |
| 11月14日 | 国際シンポジウム「山形市と台南市の「都市」の魅力再発見 —歴史と文 |

- 化に注目して一」(台湾・国立成功大学)
- 12月14日 第4回セミナー「第七代台湾総督明石元二郎の生涯とその貢献」(山形大学東京サテライト)
- 2020年
- 2月15日 第5回セミナー「日台関係のこれから」(山形大学)
- 7月31日 『一般社団法人日台政策研究所会報』創刊号 発行
- 8月22日 第6回セミナー「台湾におけるコロナウイルスの現状と今後」(オンライン)
- 2021年
- 1月9日 第7回セミナー「台湾高速鉄道の建設と運営 —NHK ドラマ「路」で触れられなかった事実—」(オンライン)
- 3月15日 『一般社団法人日台政策研究所会報』第2号 発行
- 6月19日 第8回セミナー「2021年に急浮上した「台湾」の存在感 海峡有事に日米はどう備えるか」(山形県生涯学習センター 遊学館)
- 7月2日～8日 「山形市の国際交流・台南市パネル展」パネル出展(山形市・霞城セントラル)
- 11月20日 『一般社団法人日台政策研究所会報』第3号 発行
- 12月18日 第9回セミナー「宋美齡の生涯 ～蒋介石夫人としての活動から晩年まで～」(京都アカデミアフォーラム in 丸の内)

4. 財団法人台南市台日文化友好交流基金会について

山形市と台南市との友好協定締結にあたり、民間の立場から両者の交流に深く携わったのが、社団法人台南市台日友好交流協会である。一般社団法人日台政策研究所としても、さまざまな形で交流を続けてきた。ここでは、社団法人台南市台日友好交流協会、およびその後身である財団法人台南市台日文化友好交流基金会について説明する。

4.1 台南市台日友好交流協会の設立

2009年5月3日に前身の台南県台日友好交流協会が設立され、その後市町村合併のため、2011年2月19日に台南市台日友好交流協会に改名された。2014年1月16日に法人登録を行い、2014年4月16日に社団法人台南市台日友好交流協会となった。

2017年2月19日からは、台南州農業試験場宿舍群丙種官舎(旧日本統治時代農林庁職員宿舍)に事務所を移転し活動している。2019年12月11日に組織制度を改変し、現在の財団法人台南市台日文化友好交流基金会となった。

本基金会は、毎年日本と台湾の各方面の交流活動を行なっている。その中には、「八田與一墓前祭」、「和風文化祭」、「台湾寄席—日本落語と講談会」、狂言と能の講演会など、各界から高い評価を得たイベントも多々ある。そうして長年積み重ねてきた相互交流によって、日本と台南市との観光や経済上の協力を進めていく上で、非常に重要な役割を果たしている¹¹。

なお、前身の社団法人台南市台日友好交流協会の理事長であった郭貞慧氏（現・台南市政府観光旅遊局局長）は、山形市と台南市との交流の深化に尽力し、また一般社団法人日台政策研究所の所員にもなっている。

4.2 財団法人台南市台日文化友好交流基金会のおもな歩み

財団法人台南市台日文化友好交流基金会のおもな歩み、および携わった事業について、以下に列挙する。

2010年

5月9日 姉妹会協定締結：石川県台湾華僑総会。

2013年

7月13日 交流協定締結：長崎県平戸市民会と結んだ後2017年に至るまで中学生がお互いの市に訪問し、4回の卓球交流を行った。

2014年

11月14日 教育旅行に関する覚書締結：公益法人宮城県観光連盟と締結後2017年に至るまで台南の11校に宮城県教育旅行を推し進め、2年の間に宮城第一高校、気仙沼高校などが台南に教育旅行として訪問した。

11月19日 日本公益社団法人宮城県観光連盟の村井嘉浩氏（宮城県知事）により郭貞慧理事長が「宮城県観光宣伝大使」に任命された。

2015年 公益財団法人日本台湾交流協会より郭貞慧理事長に感謝状が授与された。

2016年

1月29日 交流協定締結：群馬県水上町台湾友好親善協会。

2017年 烏山頭ダムをpushした日本人、嘉南ダムの父八田與一について、日本の文部科学省の検定済教科書（中等教育の課程）に組み入れる。

2018年

6年8日 台南市議会と京都市議会の友好交流協定締結を促進。

2019年 郭貞慧理事長が間を取り持ち、日本青森県ねぶた灯籠「鹿嶋大明神と地震鯨」を台南鹽水武廟で開催される鹽水月津港燈節にて展示。

12月11日 「財団法人台南市台日文化友好交流基金会」に組織制度を改変。

2020年

2月3日 本基金会の理事長に李退之が任命される。

2月19日 「財団法人台南市台日文化友好交流基金会」に正式名称を変更。

5. 日台交流の課題

ここでは、コロナウイルス感染症下における山形と台湾との交流の現状、およびこれからの課題について述べることにする。

5.1 コロナウイルス感染症下における日台交流の現状

2020年からのコロナウイルス感染症の蔓延により、山形市と台南市との直接の交流は停滞を余儀なくされている。現在は、両市の担当者同士による、インターネットを利用したオンラインでの連絡を継続している。また、人的な交流が難しい中、両市でのイベントに特産品を出品したり、観光案内ビデオを提供したりするなど、「モノによる交流」を積極的に進めているという。例えば、2021年11月12日～15日に開催された「大台南国際旅展」には、山形市は仙台市などとともに参加し、特産品のPRを行っている¹²。

2021年7月2日～8日には、山形市の霞城セントラルにて「山形市の国際交流・台南市パネル展」が開催された。ここでは台南市の魅力と、その他山形市と友好姉妹都市となっている各市との交流をPRするパネル等が展示され、また台南市から贈られた特産品のマンゴーが当たるクイズ大会など、各種イベントが開催された。(一般社団法人日台政策研究所もパネル展示を行い、筆者も理事として携わった。)¹³

また、台南市との交流の先鞭を着けた山形商工会議所であるが、こちらも直接の交流は停滞を余儀なくされている。そのような中、台南市進出口商業同業公会とは、毎年末に翌年のカレンダーを交換するなど、交流は継続している。また台湾政府の出先機関、台北駐日経済文化代表処との交流も継続して行っており、最近も山形の特産であるラ・フランスやリンゴと、台湾の特産であるアップルマンゴーを、互いに贈り合うなどしている。山形県日華親善協会としては、定時総会の時に、謝長廷駐日代表からビデオメッセージの提供を受けている。代表処だけでなく、台湾観

光局の日本側の出先機関である台湾観光協会とも、交流を継続しているという¹⁴。

一方、筆者も理事として携わっている一般社団法人日台政策研究所であるが、2020年以降は台湾を訪問することもできず、財団法人台南市台日文化友好交流基金会との交流も停滞したままである。セミナー、シンポジウムも対面での実施は困難となったが、これを受けてオンラインでの日台交流セミナーを積極的に推進している。また新たにオンラインでの会報の発行も始め、日台交流と関連した情報を積極的に発信し続けている¹⁵。

5.2 これからの課題と展望

山形における日台交流のこれからの課題であるが、何と言ってもコロナウイルス感染の終息と、対面による経済・文化交流の再開であろう。コロナウイルス感染については、一日も早い終息を祈るしかないが、その日を見据えて準備をすることは可能である。

山形と台湾、特に台南との交流であるが、これまでは山形市や山形商工会議所といった、組織を中心に推進されてきた。市民レベルでも、山形県を訪れる台湾からの旅行者が全外国人旅行者の半数以上を占める（2.1で既述）などしていたが、それは一面的な観光に過ぎず、経済的、文化的な交流とまでは行っていなかったと言わざるを得ない。これからは、市や商工会議所といった組織レベルだけではなく、市民レベルでの経済・文化交流の深化が求められる。そのためにも、山形大学をはじめとした学校・教育機関、そして市民団体等の役割が重要になるであろう。

一般社団法人日台政策研究所としても、これまで日台交流を推進してきた市・商工会議所等の組織と、一般の市民とを結び付け、日台の文化的な相互理解がさらに深まるよう尽力していきたい。

一方で、日台関係のこれからの考える上で、昨今の国際情勢が影を落としている。特に中国はさまざまな形で台湾に圧力をかけており、それに対してアメリカも敏感に反応している。この国際情勢次第では、2019年までの盛んな日台交流の復活もおぼつかない状況になるかも知れない¹⁶。我々も、この点は楽観的にはならず注視していく必要がある。

注

- 1 大久保伝蔵（1969）pp.19-52参照。
- 2 山形商工会議所の web サイト（<https://www.yamagata-cci.or.jp/user/dantai/gaikaku.html>）参照。
- 3 1984年に台南市進出口商業同業公会の訪問団が山形を訪れて以来、両団体は7度にわたって相互訪問を繰り返しており、それが1993年の姉妹締結につながった。（山形商工会議所でのヒアリング時の提供資料による。2021年11月17日実施。）
- 4 山形市公式ホームページ「市長のやまがた自慢「山形市と台湾の友好」」（<https://www.city.yamagata-yamagata.lg.jp/shiseijoho/shicho/1006787/1006791/1005490.html>）参照。
- 5 山形県の web サイト「山形県観光者数調査」（<https://www.pref.yamagata.jp/110011/kensei/>

- shoukai/toukeijouhou/kankoshasuchosa.html) 参照。
- 6 1993年の姉妹締結以来、山形商工会議所と台南市進出口商業同業公会の相互交流は、2017年までに30回以上に及んでいた。(山形商工会議所でのヒアリング時の提供資料による。2021年11月17日実施。)
 - 7 山形市公式ホームページ「台南市と友好交流促進に関する協定を締結しました」(<https://www.city.yamagata-yamagata.lg.jp/shiseijoho/kokusai/1007034/1007040/1003880.html>) 参照。
 - 8 野崎氏はその後、2019年10月3日に山形市・台南市交流推進アドバイザーに就任した。
 - 9 山形市公式ホームページ「山形市と台南市 交流の歩み」(https://www.city.yamagata-yamagata.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/003/880/ayumi.pdf) 参照。
 - 10 「日台政策研究所設立趣意書」より。
 - 11 財団法人台南市台日文化友好交流基金会・蔡佳容氏提供の資料による。(2021年11月15日。) 4. 2の「おもな歩み」も同資料による。
 - 12 山形市総務部国際交流センター・高橋太一所長のご教示による。(2021年11月17日ヒアリング実施。) これらの「モノによる交流」が可能となっている背景には、台湾在住の山形市・台南市交流推進アドバイザー・野崎孝男氏(前出)の尽力があるという。
 - 13 山形市公式ホームページ「山形市の国際交流・台南市パネル展」(<https://www.city.yamagata-yamagata.lg.jp/shiseijoho/kokusai/1007034/1007040/1003867.html>) 参照。
 - 14 山形商工会議所総務企画部総務企画課・高橋周一主任のご教示による。(2021年11月17日ヒアリング実施。)
 - 15 一般社団法人日台政策研究所ホームページ (<http://www-h.yamagata-u.ac.jp/~nakazawa/ijtp/index.html>) 参照。
 - 16 山形市総務部国際交流センター、および山形商工会議所とも、昨今の国際情勢には強い懸念を示していた。(2021年11月17日実施のヒアリングによる。)

引用文献

大久保伝蔵 (1969) 『忘れてならぬ歴史の一頁 ―徳をもって怨に酬ゆる―』 東京：時事通信社

本稿を成すにあたり、財団法人台南市台日文化友好交流基金会・蔡佳容氏、山形市総務部国際交流センター・高橋太一所長、そして山形商工会議所総務企画部総務企画課・高橋周一主任には、さまざまなご教示を賜った。記して感謝申し上げる次第です。

なお、本稿は2018年度～2021年度科学研究費助成事業(基盤研究(B)、研究課題名:「観光の組織化」と地域構造変容のダイナミズムに基づく次世代観光戦略の構築、課題番号:18H03457、研究代表者:山田浩久)による研究成果の一部である。

The Present Circumstance and Issue of the Interaction Between Japan and Taiwan at Yamagata

Nobuyuki NAKAZAWA

Tourist interaction between Japan and Taiwan had increased until 2019. But this interaction has been stagnant from 2020 because of the spread of COVID-19 worldwide. The future of this interaction is now really being called into question. In this article, we reflected on the past and the present circumstance of the interaction, and will make proposals about future issues.

The interaction between Japan and Taiwan in Yamagata Prefecture is promoted by the Japan-Taiwan Goodwill Association in Yamagata, and the Yamagata Chamber of Commerce and Industry. In 2017, Yamagata City and Tainan City concluded an agreement as friendship cities. Afterwards, in 2018 and 2019, a delegation representing Yamagata City visited Tainan. The Taiwan-Japan Friendship of Culture Exchange Foundation of Tainan City strived to conclude this friendship. And the Institute for Japanese and Taiwanese Policies (IJTP), in which I am engaging as the board member, is also striving to encourage cultural interactions between Japan and Taiwan.

Today, in the era of COVID-19, cultural exchange organizations and interaction between Yamagata City and Tainan City only continue to scrape by. Not only organizations but also each country's citizens are hoping to encourage further interactions with each other in the future. On the other hand, contemporary international affairs seriously affect the relations between Japan and Taiwan.